令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立　　板櫃　　中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

(1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

［8種目］ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

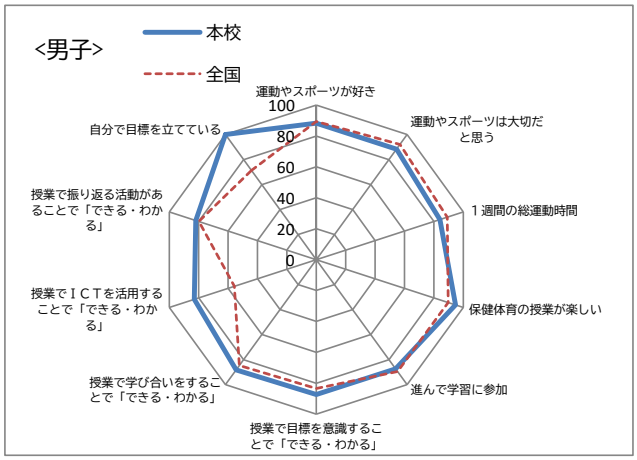
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
本市	29.72	26.24	46.29	51.95	413.28	80.12	7.86	201.52	20.51	43.46
本校全国平均以上の種目			○				○		○	○

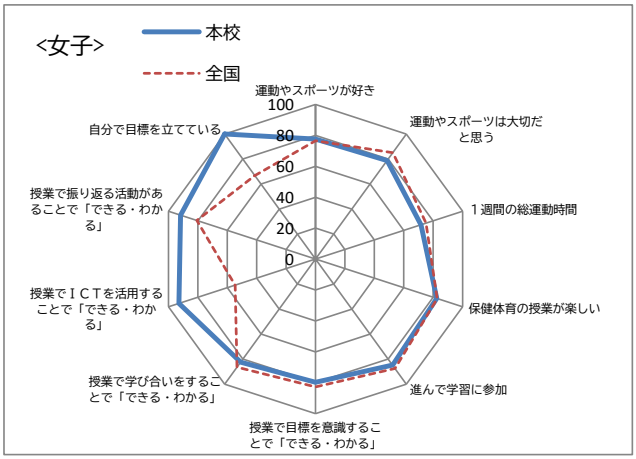
<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
本市	23.64	22.08	47.52	46.35	320.97	51.41	8.86	170.70	12.13	48.65
本校全国平均以上の種目		○	○				○		○	○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート





質問紙調査の結果分析
生徒が主体的に目標を立て、相互の学び合いの中で、身体を動かす楽しさや、「わかる・できる」といった喜びを感じることができている。しかし、運動やスポーツを大切だと実感することや、１週間の総運動時間が少ないことに課題が残る。理由は、幼少期の運動体験や近年の社会情勢、日ごろから運動する機会が減少していることが考えられる。保健体育の授業を通して、運動による心身に与える効果や、運動やスポーツの様々な楽しみ方を味わうことができる授業づくりに取り組んでいく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

保健体育の授業を中心に様々なスポーツを体験し、運動や競技の特性を理解せていく。また、運動やスポーツの関わり方を通して、いろんな楽しみ方があることを提示していきたい。さらに、仲間と協力してスポーツに取り組む楽しさを味わわせるために、体育大会やクラスマッチを実施し、事前の取組、事後の振り返りを充実させていく。

② 運動習慣等に関する取組（１校１取組）

生活習慣と健康は密接に関係している。保健の授業を通して、生活習慣病を引き起こす要因と予防の仕方について理解し、自分の生活習慣を振り返り、健康的な生活習慣の確立に向けて取り組んでいる。特に、運動習慣が身に付いていないため、昼休みに様々な競技のボールを貸し出し、日常的に運動に親しむ習慣作りに取り組んでいる。